

2025年度 授業改善推進プラン(全体計画)

学校経営方針(学力向上に関わる要点)
指導と評価の一体化の徹底 授業のUD化の推進 「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させた授業改善と学力向上 「ねらい」の明示と「自己評価」の徹底 「個別探究」と「協同探究」の設定 ・朝読書の徹底 8:25から10分間の読書時間確保、学級担任の率先垂範 ・朝学習の徹底 毎週木曜日、金曜日に学習ソフトQubenaを用いた朝学習時間確保 ・学力保証:チャイム黒板・放課後学習教室・授業時数の確保 ・小中連携:授業規律の共通実践(ねらいの明示・チャイム黒板・挨拶の徹底) ・UD化:場・時間の構造化・視覚化、WM支援(指示は短く繰り返し)、スモールステップ

授業改善の重点
全教科における学習活動で、適切な言葉遣いを指導し、言葉によるコミュニケーション能力を育み、言語環境を整える。また、文章に触れる機会を増やし文章を読み解く力を促すために、全校で朝読書活動のさらなる定着を図る。また、読書指導の充実、教科指導における学校図書館の活用を促進する。 学習の質を一層高める授業改善の取組を活性化していくことで、「主体的・対話的な深い学び」の実現を目指す。具体的には、「できる学力」となる基礎的・基本的な知識・技能の習得及び、「分かる学力」となる思考力・判断力・表現力の育成に向け、協同的探究学習による授業実践を進める。また、学習単元に合わせた「ワークシートの工夫」や「集団での検討場面の設定」を行い、生徒が主体的に学ぶ指導方法の工夫・改善に努める。

各教科の指導の重点	国語科	美術科	総合的な学習の時間の指導の重点	特別の教科 道徳の指導の重点
	○ユニバーサルデザインを意識し、生徒の学習環境を整え、理解度に応じた助言や指導を行う。 ○漢字の読み・書きの基礎的な学力の定着を図る。 ○授業の中でICTを活用した話し合いの時間を積極的にとり、協同的探究学習の充実を図る。 ○社会生活の中で必要な言語能力を育成するため、物語の展開に即して丁寧に読み取ったり、事実在即時的確に読み取ったりしたことを、自らの言葉で表現する授業実践に努める。 ○書く力向上のため、文章の要約や授業の振り返りなどの書く活動を充実させる。	○活動の流れや目標をわかりやすく提示し、見通しを持った制作活動ができるような環境づくりを行う。 ○単元毎にアンケートを実施し、自身のよさや課題を再確認させる。また、そのアンケートをもとに次単元の目標や制作方法を設定する。 ○canva、google workspace、google artなどのデジタルツールを活用し、生徒の優位にあった学習方法を画一する。	体験的な活動や問題解決的な活動、コミュニケーション活動を通して、探究的な学習の充実を図り、自ら主体的に学び・考え・判断し、責任をもって行動できる生徒を育成する。また、自国の伝統・文化の価値を理解し、誇りをもって交流・発信できる資質・能力を養う。さらに、社会教育施設・人材などの教育資源の活用を一層推進する。3年間を見通した学習活動を計画し、社会生活の中で総合的に活用できる学習の充実を図る。	学校の教育活動のあらゆる機会を通して、全教職員の協力の下に道徳的心情や規範意識を高め、実践力を養い、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を育む、人権尊重・生命尊重教育を推進する。 評価の実践に当たっては、道徳教育推進教師を中心に生徒の良い点や進歩の状況を積極的に認め、学習したことの意義や価値を実感できるよう計画する。
	社会科	保健体育科	特別活動の指導の重点	
	○調べ学習や発表学習のための資料として、前年の生徒の良い作品を活用し、見通しを持たせるように準備する。 ○基礎的な知識を定着させるような小テストを実施する。 ○アクティブラーニング(ディベート、グループ活動や課題研究等、生徒主体の授業)の精度を高め、課題設定を生徒の実態に合わせる。 ○授業と定期考査の整合性を高める。 ○ユニバーサルデザインの手法を導入し、授業に活用していく。	○確立されてきた学習規律をさらに定着させ、主体的に取り組めるようにする。 ○ICT機器を活用し、生徒同士でアドバイスをし合う授業形態を、さらに発展させる。 ○種目の特性を活かし、補強運動・補助運動を入れながら、個人の基礎体力の向上を目指していく。 ○資料や教材にUD化を取り入れ、生徒の活動意識を高める。ホワイトボード、ワークシートの活用もさらに工夫していく。		
	数学科	技術・家庭科		
	○プリントや問題集を利用し、繰り返し練習させることによって、基礎基本の定着を図る。 ○授業における教え合いを推奨することによって、クラス全体の学力向上を目指す。 ○習熟度別少人数授業の展開により、個々の学力に応じた指導を行う。 ○ICT機器や学習支援ソフトQubenaを活用して学習意欲を高めさせる。	技術 ○復習時において必ずノート・フォームの小テストを見返し、基礎基本の定着を図る。 ○生活との関連をより深め、生徒が主体的に学ぶことができるよう、実習や視覚的な教材を活用していく。 家庭 ○ワーク・プリント・フォームの小テストや課題を利用し、繰り返し、学習することにより基礎基本の定着を図る。 ○生活との関連をより深め、生徒が主体的に学ぶことができるよう、実習や視覚的な教材を活用していく。		
	理科	外国語科		
	○生徒が自発的に行動できるように認める指導を継続し、チャイム着席の徹底と忘れ物をしないようなたらきかけを行い、規律の確立をする。 ○本時のねらいを明示し、丁寧な説明ときめ細かな生徒観察により評価の一体化をはかり、基礎基本の習得をさせる。小テストや補習などを利用して理解を促す。 ○実験観察に基づいた授業構成を増やし、視覚的に理解させて興味関心を向上させる。 ○ICT教材や学習支援ソフトQubenaを活用して学習意欲を高めさせる。	○ALTや友達と英語でのコミュニケーション活動の時間を十分に確保する。 ○教科書を活用してたくさんの英文法、英文、英単語に触れ、対話活動を取り入れる。 ○「話すこと」「書くこと」を関連付けて指導することで、生徒が意欲的に取り組めるようにする。 ○学習した言語材料を用いて、事実や自分の考えなどを話したり、書いたりすることができる技能を身に着ける。 ○日常的な話題について簡単な語句や文を用いて伝えたり相手からの質問に答えたりすることができる。		
	音楽科			
	○市民ホールでの合唱コンクールで、会場に美しく響く合唱指導と、生徒自身が感動を味わうことのできる行事との取り組みを、教科として連携する。 ○アルトリコーダーによる器楽指導の時数確保と、内容の充実を図る。 ○ICTや視聴覚教材を活用した鑑賞授業の充実を図る。			

	ICT機器の活用	見通しをもたせる導入	振り返りの設定
本校の授業改善に向けて	ICT機器を積極的に活用し、全ての生徒にとって視覚的に分かりやすい授業を展開する。校内研修の中でもICT機器の活用について話し合う機会を設け、各教科から様々なアイディアを持ち寄り、全校で取組を進めていく。	全ての生徒がその時間に学習する内容を把握してから落ち着いて授業に取り組むことができるように、学習の流れやめあてを明示するように徹底する。	授業の最後に本時のめあてを振り返り、学習した内容をまとめる時間を確保する。内容の定着について自己評価をさせることで、次時の授業に役立てる。